

トータルセキュリティ特集に寄せて

Total Security System



近藤 誠
Makoto Kondo

ここは、イスタンブールのとあるオフィスビル。出勤してくる人々が、入退場ゲート前で、なにやら覗(のぞ)き箱みたいなものに目を当てている。緑のランプがつくと、ゲートが開き、入場が可能になる。ゲートを入ると、前方のディスプレイにAとか、Dとか表示が出ている。それを見て、指定のエレベーターに乗り込むと、かご内では行き先階ボタンを押さずに(というか、行き先階ボタンがない)、自分のフロアにたどり着けるというわけだ。セキュリティ技術では、欧米ほど進んでいないと思っていたトルコで、今からお話するトータル・セキュリティ・システムの真髓が見られようとは、正直言って驚きである。

三菱電機では、かなり昔からセキュリティに係る技術開発を行い、数多くの製品を世に出してきた。1954年には監視用カメラ、1993年には入退管理システムの魁(さきがけ)となるMELSAFETYが、そして1995年にはのちに携帯電話向けの国際標準暗号となったKASUMIの原型である暗号アルゴリズム“MISTY”が誕生した。その後も、指紋に代表される生体認証システムや、広域侵入検知センサ、統合ID管理やログ管理システムなどを開発し、高い評価を得てきた。

しかしながら、犯罪の巧緻(こうち)化が進み、単機能的なセキュリティ・システムだけでは、顧客の安全、安心要望を満たすことが困難になってきた。加えて、セキュリティ・システムが本質的に内包する対象者(物)の同定、及び空間的、時間的追跡機能を活用すれば、性悪説に立脚するためのネガティブの印象が強かったセキュリティ・システムに、ポジティブな別の付加価値を付与できることが注目されるようになってきた。そこで誕生したのが当社のトータル・セキュリティ・ソリューションDIGUARDであり、複数のセキュリティ・コンポーネントを連携することでセキュリティ機能を強化するとともに、より快適で、環境に優しいオフィスビルをone to one的に実現しようとするものである。

ここで、イスタンブールのビルをイメージしながら、DIGUARDが具体的に実現できる機能を紹介してみよう。システムの入り口は、いかに迅速に、正確に対象者を同定するかである。一番確実なのは、指紋などの生体認証によ

る同定であるが、利便性とか、他システムとの共用性を考慮した場合は、非接触ICカードとか、RFID(Radio Frequency Identification)の利用も可能である。次のステージは、同定された対象者を個別に、物理的に選択して、通行を許可する機構であり、共連れ検知つきゲートなどがそれに該当する。いったん対象者が同定され、空間的、時間的位置が追跡できれば、その情報をビル内の各種システムが共有することで、対象者に対して種々のone to one serviceを効率的に提供できることになる。エレベーターを例にとると、対象者を自動的に居住階に運ぶことはもちろん、対象者の属性によって、VIP運転としたり、身障者用運転サービスとしたりすることも可能となる。また、空調、照明も、対象者に適応するような制御が可能となり、最高のサービスを、環境に配慮しながら提供できることになる。また、パソコンログオンとか、プリンターへのアクセス権付与なども可能となり、機密情報への備えも万全となる。

さらに、DIGUARDでは、納めたシステムに内蔵する機能に加えて、ネットワークを介して、運用管理センターから遠隔で付加的なサービスを提供できるようになっている。例えば、膨大な画像データを顧客自体が保管する必要はなく、センター側で蓄積しておき、有事のときに検索したり、センター側が持つ最新の不審者検知ソフトウェアで検索をかけることも可能となろう。また、日々変化する顧客のID情報の維持管理、広域にまたがるセキュリティ・システムの連携支援といったサービスも可能である。すなわち、DIGUARDは、ただ単に自分(自社)の物的、知的財産を守るという目的にとどまらず、対象者の属性に合わせた種々のサービスを提供できるセキュリティ・ソリューションである。

この特集号では、DIGUARDを構成する各種システム及びそれらの連携例を紹介するとともに、DIGUARDと連携して、ビル設備管理をオープンなネットワーク上で実現するビル管理システムFacima BA・systemについても紹介する。

当社では、永年培ったセキュリティ技術を融合した形でのトータル・セキュリティ・ソリューションDIGUARDによって、皆様に安全・安心で、快適な環境を提供していく所存である。引き続き、読者の皆様のご支援をお願いしたい。